



# 平成25年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

平成24年10月30日

上場取引所 東名

上場会社名 株式会社 木曽路

コード番号 8160 URL <http://www.kisoji.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 松原 秀樹

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 服部 昭仁

四半期報告書提出予定日 平成24年11月9日

配当支払開始予定日

TEL 052-872-1811

平成24年11月29日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 機関投資家・アナリスト向け

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成25年3月期第2四半期の業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

### (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	20,586	4.1	847		811		628	
24年3月期第2四半期	19,771	0.7	921		894		676	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円銭	円銭
25年3月期第2四半期	24.33	
24年3月期第2四半期	26.18	

### (2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円		百万円		%
25年3月期第2四半期	37,227		28,300		76.0
24年3月期	38,685		29,153		75.4

(参考) 自己資本 25年3月期第2四半期 28,300百万円 24年3月期 29,153百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
24年3月期	円銭	円銭	円銭	円銭	円銭
25年3月期		7.00		7.00	14.00
25年3月期(予想)				7.00	14.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成25年3月期の業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円銭
通期	46,000	4.2	1,800	43.8	1,880	38.0	920	120.5	35.60

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

期末発行済株式数 (自己株式を含む)	25年3月期2Q	25,913,889 株	24年3月期	25,913,889 株
期末自己株式数	25年3月期2Q	73,587 株	24年3月期	73,484 株
期中平均株式数 (四半期累計)	25年3月期2Q	25,840,360 株	24年3月期2Q	25,841,130 株

四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

1. 平成24年4月27日に公表いたしました業績予想は、平成24年10月24日付の「業績予想の修正に関するお知らせ」にて修正しております。  
2. 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信[添付資料]4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## 添付資料の目次

1 . 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
( 1 ) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
( 2 ) 財政状態に関する定性的情報 .....	3
( 3 ) 業績予想に関する定性的情報 .....	4
2 . サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	4
( 1 ) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
( 2 ) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3 . 四半期財務諸表 .....	5
( 1 ) 四半期貸借対照表 .....	5
( 2 ) 四半期損益計算書 .....	7
( 3 ) 四半期キャッシュ・フロー計算書 .....	8
( 4 ) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
( 5 ) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

(第2四半期累計期間)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	四半期純利益 (百万円)	1株当たり 四半期純利益 (円)
平成25年3月期	20,586	847	811	628	24.33
平成24年3月期	19,771	921	894	676	26.18
増減率(%)	4.1	-	-	-	-

当第2四半期累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要やエコカー補助金等による景気拡大効果が期待されましたが、一方で世界経済の減速や円高を背景に輸出が伸び悩み、生産活動は期初以降横ばい基調で推移しました。また、個人消費については、省エネ型耐久消費財に一時的な支出増加があったものの、光熱費の値上りや夏季賞与の減少などにより、消費者行動は総じて慎重な推移を辿りました。

外食業界におきましては、消費者の節約意識が引き続き強く、また、人口の減少・高齢化による市場縮小圧力が強い中で、企業間競争は相変わらず厳しく、主要外食企業の既存店では客数が前年を下回り、売上高は前年比減収となりました。

このような経営環境の中で当社は、3店舗の新規出店、6店舗の改装、2店舗の業態変更、1店舗の退店を実施し、その結果、当第2四半期会計期間末の店舗数は171店舗となりました。

営業面では、「食」の安全性確保に万全の注意を払いつつ、春の歓送迎会や大型連休、夏休み、季節の行事等に焦点を当て、料理・サービスの充実と共に販売促進活動の強化に努めました。木曾路部門においては、ポイントカードの制度変更に伴い一時的なポイント引当の増加があったものの、来店動機にも繋がり、また、前年同期の放射能汚染問題による売上減少の反動もあり、既存店売上高は前年同期に比べ増加となりました。

費用面におきましては、一部食材の値上りにより原価率が上昇し、また、店舗の新設・改装に伴う広告宣伝費、修繕費、消耗品費の増加やポイント制度変更に伴う販売促進費用の増加があったものの、一方で、人件費、固定費の抑制に努め、販売費及び一般管理費率を引き下げることが出来ました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は205億86百万円(前年同期比4.1%増加)となり、営業損益は8億47百万円の損失(前年同期実績9億21百万円の損失)、経常損益は8億11百万円の損失(同8億94百万円の損失)、四半期純損益は6億28百万円の損失(同6億76百万円の損失)となりました。

(部門別の概況)

部門別売上高

	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	
	金額(百万円)	前年同期比 増減率(%)
木曾路	17,108	5.1
素材屋	1,875	9.7
鈴のれん	588	45.7
とりかく	496	5.2
じゃんじゃん亭	484	5.6
その他	32	5.3
計	20,586	4.1

#### 木曾路部門

しゃぶしゃぶ・日本料理の「木曾路」部門は、3店舗の新規出店、6店舗の改装により、当第2四半期会計期間末店舗数は118店舗となりました。

営業面では、母の日、父の日、敬老の日などのイベント並びに恒例の「しゃぶしゃぶ祭り」を展開し、また、季節毎の旬のメニューを充実し、コース料理に加えて地域限定の一品推奨を強化するなど売上の増加に努めました。その結果、既存店の客数・客単価とも前年同期を上回り、当第2四半期累計期間の売上高は、前年同期末と比べ2店舗増加していることもあり、171億8百万円(前年同期比5.1%増加)となりました。

#### 素材屋部門

居酒屋の「素材屋」部門は、店舗の異動はなく、当第2四半期会計期間末店舗数は26店舗であります。

営業面では、昨年9月のグランドメニューの大幅改定以後、旬メニューの充実、串焼き販売と一升瓶焼酎のお値打ち販売を強化し、来店客数の回復に努めました。また、宴会対策としてインターネットによる販売促進活動にも注力しました。その結果、既存店の売上は来店客数の回復により増加しましたが、当第2四半期累計期間の売上高は、前年同期末に比べ4店舗減少していることもあり、18億75百万円(同9.7%減少)となりました。

#### 鈴のれん部門

和食レストランの「鈴のれん」部門は、前事業年度末において「素材屋」からの業態変更のため改装中であった2店舗(関西地区)が、第1四半期に開店し、当第2四半期会計期間末店舗数は8店舗となりました。

営業面では、季節メニューの提供のほか、母の日、父の日、敬老の日に合わせてイベントを展開するなど来店客数の獲得に努めました。この結果、当第2四半期累計期間の売上高は5億88百万円(同45.7%増加)となりました。

#### とりかく部門

鶏料理の「とりかく」部門は、店舗の異動はなく、当第2四半期会計期間末店舗数は10店舗であります。

営業面では、おすすめメニューとして旬の逸品を提供し、宴会メニューの充実を図ることにより予約の獲得に努めました。しかし、一部地域において再開発の影響もあり、当第2四半期累計期間の売上高は4億96百万円(同5.2%減少)となりました。

#### じゃんじゃん亭部門

焼肉の「じゃんじゃん亭」部門は、1店舗の退店を行い、当第2四半期会計期間末店舗数は9店舗であります。

営業面では、お値打ちな和牛メニューの推奨のほか、キッズクラブ会員への販促活動や学生予約の獲得活動の強化など来店客数の確保に努めました。しかし、昨年のユッケ食中毒事件や放射性物質による牛肉の汚染問題の影響が長引き、前年同期に大幅減少した来店客数は十分な回復には至りませんでした。その結果、当第2四半期累計期間の売上高は4億84百万円(同5.6%増加)となりました。

#### その他部門

その他部門は、外販(しぐれ煮、胡麻だれ類)、不動産賃貸等であります。

### (2) 財政状態に関する定性的情報

#### 資産、負債及び純資産の状況

	前事業年度末	当第2四半期 会計期間末	増 減
総資産(百万円)	38,685	37,227	1,458
純資産(百万円)	29,153	28,300	853
自己資本比率(%)	75.4	76.0	-
1株当たり純資産(円)	1,128.22	1,095.20	33.02

当第2四半期会計期間末の総資産は、372億27百万円で、前事業年度末比14億58百万円の減少となりました。主として、現金及び預金14億9百万円、固定資産2億1百万円がそれぞれ減少した一方で、繰延税金資産等が増加しました。負債は、89億27百万円で、前事業年度末比6億4百万円の減少となりました。主に法人税などの未払税金や買掛金が減少しました。また、純資産は、283億円で、前事業年度末比8億53百万円の減少となりました。これは、主として、四半期純損失6億28百万円、剰余金の配当1億80百万円によるものであります。

以上の結果、当第2四半期会計期間末の自己資本比率は76.0%、1株当たり純資産は1,095円20銭となりました。

### キャッシュ・フローの状況

(第2四半期累計期間)

	平成24年3月期 (百万円)	平成25年3月期 (百万円)	増減 (百万円)
営業活動による キャッシュ・フロー	620	436	184
投資活動による キャッシュ・フロー	39	690	729
財務活動による キャッシュ・フロー	314	282	32
現金及び現金同等物の 四半期末残高	8,888	10,439	-

当第2四半期累計期間のキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが4億36百万円の流出超過(前年同期は6億20百万円の流出超過)となりました。主な内容は、税引前四半期純損失8億87百万円、減価償却費6億88百万円、法人税等の支払額2億53百万円であります。投資活動によるキャッシュ・フローは、主として新規出店・改装による投資により6億90百万円の流出超過(前年同期は39百万円の流入超過)、財務活動によるキャッシュ・フローは、リース債務の返済、配当金の支払等で2億82百万円の流出超過(前年同期は3億14百万円の流出超過)となりました。

この結果、当第2四半期会計期間末の現金及び現金同等物の残高は前期末比14億9百万円減少し、104億39百万円となりました。

### (3)業績予想に関する定性的情報

通期の業績予想につきましては、平成24年4月27日に公表した業績予想を平成24年10月24日付で次の通り修正しております。なお、詳細につきましては、平成24年10月24日付「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

(通期の業績予想数値の修正)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益(円)
前回発表予想(A)	47,000	1,800	1,880	920	35.60
今回修正予想(B)	46,000	1,800	1,880	920	35.60
増減額(B-A)	1,000	-	-	-	-

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表  
(1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	11,848	10,439
売掛金	952	819
商品及び製品	29	34
原材料及び貯蔵品	570	489
その他	789	1,151
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	14,190	12,933
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	8,707	8,791
土地	5,637	5,637
その他(純額)	1,942	1,803
有形固定資産合計	16,286	16,232
無形固定資産	261	235
投資その他の資産		
差入保証金	5,422	5,362
その他	2,552	2,490
貸倒引当金	28	28
投資その他の資産合計	7,946	7,825
固定資産合計	24,494	24,293
資産合計	38,685	37,227

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成24年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,221	1,090
短期借入金	950	950
未払法人税等	324	123
賞与引当金	505	583
その他の引当金	99	101
その他	2,855	2,533
流動負債合計	5,956	5,382
固定負債		
退職給付引当金	1,426	1,446
資産除去債務	1,350	1,374
その他	798	724
固定負債合計	3,574	3,544
負債合計	9,531	8,927
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,056	10,056
資本剰余金	9,875	9,875
利益剰余金	9,351	8,541
自己株式	112	112
株主資本合計	29,171	28,361
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	17	61
評価・換算差額等合計	17	61
純資産合計	29,153	28,300
負債純資産合計	38,685	37,227



(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	19,771	20,586
売上原価	6,288	6,592
売上総利益	13,483	13,994
販売費及び一般管理費	14,405	14,841
営業損失( )	921	847
営業外収益		
受取利息	13	12
受取配当金	9	9
協賛金収入	10	15
その他	10	8
営業外収益合計	43	45
営業外費用		
支払利息	4	4
寄付金	11	1
会員権評価損	-	2
その他	0	1
営業外費用合計	15	9
経常損失( )	894	811
特別損失		
固定資産除却損	28	63
減損損失	50	12
特別損失合計	79	76
税引前四半期純損失( )	973	887
法人税、住民税及び事業税	60	60
法人税等調整額	356	319
法人税等合計	296	259
四半期純損失( )	676	628

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税引前四半期純損失( )	973	887
減価償却費	759	688
減損損失	50	12
売上債権の増減額( は増加)	42	132
たな卸資産の増減額( は増加)	219	76
仕入債務の増減額( は減少)	79	131
その他	152	90
小計	497	199
利息及び配当金の受取額	23	21
利息の支払額	4	4
法人税等の支払額	121	253
その他の支出	19	0
営業活動によるキャッシュ・フロー	620	436
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	385	706
差入保証金の回収による収入	546	127
その他	121	110
投資活動によるキャッシュ・フロー	39	690
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
社債の償還による支出	78	-
配当金の支払額	129	180
その他	107	101
財務活動によるキャッシュ・フロー	314	282
現金及び現金同等物の増減額( は減少)	896	1,409
現金及び現金同等物の期首残高	9,784	11,848
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,888	10,439

(4) 継続企業の前提に関する注記  
該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記  
該当事項はありません。